

2022Battlax ノブアツ杯 Haruna 車輛規則書

1、総合仕様

- 1-1 レース前車検での主催者側の判断には、その解釈のすべてに対し、
いかなる場合でも参加者は抗議を申し立てられない
- 1-2 ブレーキは前後にそれぞれ安全で独立した有効なブレーキを備えなければならない
- 1-3 ハンドルは左右一杯に切った時に指を挟まないよう、タンク、カウリング等に間隔を確保する
- 1-4 クラッチレバー、ブレーキレバー、ハンドル変更可能。但しその先端に丸みを持たせること
- 1-5 全クラスサイドスタンドは取り外しが望ましい。また、安全確保のチェーンガードは必ず装着する
- 1-6 ミラー、キャリアは取り外す。ライト、ウインカー、テールランプはテーピングでも可能
- 1-7 カウリング等を外した場合ステーも取り外すか、突起物が無いように処理すること
- 1-8 ドレンボルト、オイル注入口にはワイヤーロックを施す
- 1-9 台数が7台未満の場合、他クラスと混走する可能性がある
- 1-10 走行前にキャッチタンク内の液体は処理しておくこと
- 1-11 排気音は88db以下
- 1-12 参加者は革製ツナギ・ブーツ・グローブ、フルフェンスを装着すること
- 1-13 車輛規定に反した者は主催者の判断で当該シリーズの次戦に出場停止する処分をすることがある

2、M-50

- 2-1 最低重量はレース終了時マシン+ライダー+フル装備で125kgを満たす
若しくはバランスウェイトを積まない場合は1周につき10m後方から決勝スタート
- 2-2 排気量は2サイクル50cc以下、ノーマルマフラーを装着する
- 2-3 キャブレターはセッティングインナーパーツ変更、インテークチャンバーの取り外しと処理のみ可能
- 2-4 CDIユニット、ワイヤーハーネスの改造、変更可能。
メインスイッチを取り外した場合は必ずキルスイッチを装着のこと
- 2-5 スプロケット、チェーン、チェーンサイズの変更可能
- 2-6 スパークプラグ、プラグキャップの変更可能
- 2-7 キックの取り外しは可能
- 2-8 カウリング類の材質変更、取り外しは可能。但し総合1-7を満たしていること
- 2-9 ブレーキレバー、パッド、シューの材質ブレーキオイル、ホース、バンジョーボルトの変更は可能
- 2-10 各メーター、メーターケーブル、スピードメーターケーブルの駆動ギアの改造変更、取り外し可能
- 2-11 バッテリー、コイルの取りはずしは可能
- 2-12 ステアリングダンパー取り付け可能。但しストッパーとの併用は不可
- 2-13 エアークリーナー及びボックス、エレメントの改造変更、取り外しは可
- 2-14 2サイクル車のオイルポンプ取りはずし可能
- 2-15 アクセルワイヤー、グリップ、トップブリッジ変更改造は可能

3、HRC トロフィー

- 3-1 HRC トロフィーの規則を準拠し本特別規則に従って開催される
- 3-2 HRC トロフィーの規則を準拠し年齢によるクラス分けで開催される
- 3-3 出口直径10mmのバツフルを装着すること

4、体験クラス

- 4-1 ポケバイ、74、Kids バイク、1周 60 秒以上のライダーで争うものとする
- 4-2 本クラスは初心者を対象としたクラス。子供はもちろんご父兄の参加も受け付ける

5、GAG クラス (GAG ワンメイク)

- 5-1 50 cc未満 10 インチ以下の車両で行う
- 5-2 安全基準を守っていれば改造自由。88 dB以下にすること
- 5-3 マシン性能差がある場合はハンデを付ける場合もある
- 5-4 リバースグリッド+ハンデ戦の可能性もあり

6、シニアオープン/ジュニアオープン/FOA(フレッシュマンオープン A)/FOB/FOC

- 6-1 155cc 以下の車両で改造制限無し。但し音量は 88db 以下厳守
- 6-2 FOC→55 秒以上、FOB→53 秒以上、FOA→50 秒以上
ジュニア 48 秒以上、シニアは 48 秒未満のライダーの参加を受け付ける。
練習・予選で基準タイムを切った選手はタイム相当のクラスで決勝を走る。
また決勝中に基準タイムを下回ると 1 回につき⇒ペナルティー7 秒をレースタイムに加算 (最大 14 秒)
- 6-3 エンジンを改造 (ハイカム、ボアアップ等) してある車両は必ずオイル受けを装着すること
- 6-4 スリックタイヤの使用はシニア、ジュニアオープンのみ使用を許可する
その場合タイヤウォーマー、レインタイヤの準備を強く勧める

7、SS125A/B

- 7-1 4 ストローク 125 ccで争うものとする。A クラス 50 秒未満 B クラス 50 秒以上とする
- 7-2 スリッパークラッチ、軽量フライホイール NG リアサス変更 OK
フロントフォーク変更 NG 但しスプリング、シートパイプ変更・加工 OK
イニシャルアジャスター、スタビライザー追加 OK
ブレーキユニット変更 NG 但しパッド、ホースの変更 OK
ECU セッティング、エアークリーナーBOX 変更 OK ファンネル追加 OK
ハイスロ、ステップ、ハンドル、カウリング、チェーン、プラグ、スプロケット交換・変更 OK
スリックタイヤ禁止
- 7-3 マフラー交換可能。ただし出口径 14mm 程度のバツフル装着。88 dB厳守
- 7-4 シフターはメーカー純正品の取り付けを許可する
- 7-5 クーラントを排出するホースにはキャッチタンクを必ず装着する事
- 7-6 ミラーは取り外し、ウィンカー、ライト、ブレーキランプには飛散防止のテーピングをする事
- 7-7 SS125B は GSX-R125 カップとの混走を予定

8、Kids クラス

- 8-1 2 サイクル、4 サイクル問わず 50cc もしくは 70cc で
10 インチ以下の車両を用いる (CRF、DR-Z、TT-R、QR、PW 等)
- 8-2 装具含 40kg 以上のライダーは 70cc 以下の車両使用可能とする 例 : DR-Z70 など
- 8-3 変更・改造可能なものは以下のモノとする
スプロケット、チェーン、ハンドル、サスペンション、ステップ、サスペンション

9、GSX-R125 カップ

9-1 スズキ GSX-R125 を用いた 50 秒以上の入門クラスとする

9-2 改造範囲は SS125 と同等とする

10、FN4-50

参加可能車両 4 サイクル 50cc スクーター一般公道用車両

下記以外の改造変更加工は一切不可

【フレーム・外装】

① 安全性向上の為、フレーム・エンジンなど走行中明らかに路面接地している箇所に 関しては、強度に影響が出ない範囲で切除が望ましい。加工後の処理は安全性を考 慮確保する事。

② ボディー・カウル類の改造は不可とするが、純正同一形状・同等素材の物への変更 は可。 安全性・整備性向上の為のメーター類・灯火類・アンダーカバー・インナーフェン ダー・リアフェンダーの加工及び取り外しは可。ただし、燃料タンクが直接路面に 接触する可能性がある場合は純正のカバー類と同等以上の強度を有するカバー類（金属製が望ましい）を取り付ける事（テープ・タイラップのみの固定は不可）。 ライトカバー等のレーシングカウルの追加装着は可。

③ ステップボードの凸部分のカットは可。ただし、穴は塞ぐこと。ステップボードへ の滑り止め部品の取り付けは可。

④ シート表皮・シートベース・シート内ウレタンの加工（アンコ抜き等）は可。

【エンジン】

① エンジン本体（ガスケット含む）の変更・加工は不可。ただしエンジン整備の際の バルブ擦り合わせや、シートカット等の必要最小限のメンテナンスは可。

② ブローバイホースはシリンダーヘッドからエアクリーナーへ繋ぎ内圧コントローラ ーやワンウェイバルブなどは使用不可。

③ 純正部品のパーツリスト上で同一品番で流通されるエンジン部品の互換を認める（例 ジョグ・ビーノのエンジン本体・部品の流用など）。

④ アイドルコンセンペータ等の 2 次燃焼燃焼装置は、機能停止の為ジョイントホース の取り外し・取り外し部分の装着のみ可。

⑤ 社外製の純正形状補修用エンジン部品（ガスケット等含む）の使用は禁止。

【吸気系】

①マフラーの変更・改造は不可。ただし同一メーカー・4 サイクル同排気量の物は流用 可。

②空燃比センサーの解除（O₂ キャンセラー等）は可。

③吸気系（スロットルボデー エアクリーナー インジェクター等）の変更・改造不可。

④サスペンション取付時に干渉するエアクリーナーボックスの最低限の加工・オフセッ トは可。ただし、吸入面積の拡大や容量拡大等の性能向上の加工は禁止。

⑤キャブレター車両はジェット類・ニードル類の燃調セッティング内部部品のみ変更可。 オートチョーク機構の作動関連部品についてのみ機能停止の為の加工のみ可。 キャブレター車は、ガソリンキャッチタンクを装備する事。

【駆動系】

①駆動系（クランクシャフト・駆動系カバー除く）は、同一メーカー・同排気量の純正 部品で無加工・無改造で装着出来る物の流用は可。

②ウェイトローラー・シムワッシャーは社外品の使用及び変更・追加は可。

③駆動カバーのキック始動関連部品の取り外しは可。その場合はセル始動が可能で外部 スターターでの始動は不可。

④駆動系冷却の為の駆動カバーの加工は不可。転倒により開いた場合の穴は必ず塞ぐ事。 溶接が望ましいが、最低限

金属製テープで塞ぐ事。

⑤駆動系カバー取付ボルトは全て止める事。

【点火・電装】

①バッテリーの変更は可。ただし容量の大きい物やバイク用以外の物への変更は不可。

②プラグ・プラグキャップの変更は可。イグニッションコイル・ケーブルの変更は不可。

③車両ハーネスの変更・改造は可。ただしメインキーの取り外し（移設は可）は不可とし、メインキーでエンジン停止が出来るものとする。

④フライホイール・ジェネレータ・空冷ファン・発電制御レギュレータの変更・改造・取り外しは不可とし、バッテリーへの充電機能を稼働させなければならない。

⑤インジェクション車両のECUの改造・取り外しは不可。ただし燃料調機能および点火時期調整機能・エンジン回転リッターの変更および解除が出来る電子制御装置（サブコン）の使用は可。

⑥キャブレター車のCDIユニットの変更は可。

⑦エンジン始動には、セル・キックいずれかで始動可能であること。外部スターターの使用は禁止。

【燃料・油脂類・冷却水】

①使用可能な燃料は一般ルート（一般向けガソリンスタンド）で購入可能な市販ガソリンのみとする。レース用燃料（AVガス・エルフ等）や燃料添加剤は禁止。

②エンジンオイル・ギアオイル・フォークオイルなどの油脂類の変更は可。

③冷却水はレース用冷却水を推奨するが、クーラント使用の場合は濃度30%以内である事。

【ブレーキ・サスペンション・タイヤ】

①リアショックの変更は可。

②ブレーキパット・ブレーキワイヤー・ブレーキホース・バンジョーボルト・フルードの変更は可。

③ブレーキディスクローターは純正同一形状の社外補修部品の使用は可。

④コンビブレーキ車両のコンビブレーキ機構の解除は可。その場合はブレーキマスター シリンダーの変更は可。

⑤フロントフォークは同一メーカー・同排気量での純正部品の流用可。ハンドルを除くステム・フォーク・ブレーキ・ホイール一式の同一メーカー・同排気量の純正部品の流用は可。フロントフォークの干渉を為の最小限の加工は可。ステムは純正同一形状の社外補修部品の使用は可。

⑥フロントフォークスプリングのカラー追加やフォークオイルの変更、シートパイプの加工は可。

⑦スピードメーター関連部品の取り外し、変更は可。

⑧フォークダストブーツの取り外しは可。

⑨ホイールダストシールの変更は可。ただしベアリングのオイルシール取り外しは不可。

⑩ホイールは同一メーカー同排気量間で無加工・無改造で装着出来る純正品の流用は可。

⑪レーシングスタンド・サスペンション取付ステーの追加は可。

⑫タイヤの変更は可。ただし一般ルートで購入出来る物のみとし、レース専用タイヤの使用は禁止する。

【計器・操作関連】

①ハンドルグリップの変更は可。

②バーエンドキャップを取り付ける為のハンドルの加工は可。バーエンドキャップが使えない車両は非貫通タイプのグリップを使用する事。

③アクセルワイヤー・アクセルグリップ部（ハイスロ・バーエンド）の変更可。

④ブレーキレバーの変更可。

⑤レバーガードの取り付けは可。

⑥追加メーター（タコメーター・ラップ計測器等）の取付可。ただし強固な固定とし、落下に十分注意する事。取付の為のステー追加を認める。

【2バルブ車両 特例措置】 ※レッツ4、アドレスV50、タクト、D I O（A F 6 3を除く）等

- ①駆動系部品の社外部品の使用は可。
- ②エアクリーナーエレメントの取り外しは可。ただしエアクリーナーボックスは装着する事。
- ③ハンドルを除くフロントサスペンション・ステム・ホイール等及びブレーキ部品一式 の同排気量の純正部品の流用は可。ステム・ブレーキディスクローターに関しては、 純正同形状の社外補修部品の使用は可。 純正フロントフェンダー付き車両は流用時に純正フェンダーを取付ける事。 フェンダー取付時に必要な最小限の加工は可。 ハンドルストッパーが機能する事が望ましい。 （例）レッツ4にJ O G（5 0 c c）のフロント周リー式流用等
- ④ノーマル形状タイプの社外製マフラーの使用可。 戦力バランス等を考慮し、上記使用パーツ使用許可などを含め猶予期間無く変更する 場合がある。F I 車は過渡期である事を鑑み、レギュレーションは継続的に変化していく事とする。 公平性を考慮し開催期間中の変更箇所は主催者公式発表後に適用される事とする。